

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	藤野 洋子

開催日時	平成30年6月28日(木) 10:00 ~ 12:00
開催場所	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(会長) 平賀 健太郎(委員) 宮本 正路(委員) 当日欠席 鎌倉 義雄(委員) 田中 一郎(委員) 田中 正子(委員)
出席者(学校)	藤野 洋子(校長) 芝 浩文(事務長) 萬井 俊治(教頭) 林 佳巨(教頭) 吉川 勝敏(首席) 酒井 友行(首席) 石見 友一(首席) 岡本 一恵(首席) 古沢 宏明(指導教諭) 辻 美穂(小学部主事) 増田 健作(中学部主事) 菊池 亮輔(高等部主事)
傍聴者	3名(本校保護者)
協議資料	平成30年度 学校経営計画
備考	

議題等(次第順)

- (1) 校長挨拶
- (2) 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介
- (3) 「学校運営協議会会長及び副会長」の選出(会長 小田浩伸 副会長 平賀健太郎)
- (4) 本年度の「学校運営協議会実施要項」「学校運営協議会傍聴に関する要領」の確認
- (5) 本年度の予定
 - ① 第1回 「学校経営計画」 めざす学校像、中期的目標、本年度の取組内容
 - ② 第2回 「学校経営計画」 進捗状況 他
 - ③ 第3回 「学校経営計画及び学校評価」 達成状況 他
- (6) 本年度の「学校経営計画」について
- (7) 意見交換
- (8) 校長挨拶

協議内容・承認事項等(校長より内容説明)

≪平成30年度 学校経営計画説明≫

*「めざす学校像」実現に向け、校長が「基礎」「実践」「組織」「発信」の観点で「中期的目標」を確認し、「本年度の取組内容」について、具体的に説明を行った。

1. めざす学校像

児童生徒一人ひとりの「自立と自己実現」に向けて教育実践すると共に、地域社会に対しても「多様性社会の実現」を推進できる学校

→その実現のために「チーム光陽！つたえる・分かち合う・つながる」を合言葉に、「基礎」「実践」「組織」「発信」の4点を連動させて「好循環な学校」を作る。
2. 中期的目標および本年度の取組内容
 - (1)【基礎】安全安心力の向上
 - ① 人権尊重の教育
 - ・特に、児童生徒に使用する「ことば・行動」と同僚間で使用する「ことば・行動」の質を高める。
 - ② 心身の健康を守る教育の推進
 - ・国事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」の重点校としての取組について説明。
 - ③ 危機管理体制の強化
 - ・大災害に備えての防災マニュアル等の検討と防災以外の「学校における危機管理」の手引きについて整備する。
 - (2)【実践】授業実践力の向上
 - ① 教育課程の再編成
 - ・新学習指導要領に基づく指導内容表とチェック表を使用し、各授業担当者が指導内容の取扱い状況を確認する。
 - ② 質の高い授業実践
 - ・授業実践交流会や授業参観週間・交流会を実施し、授業力の向上を図る。
 - ③ 自立活動の充実
 - ・病弱部門でのVRやテレビ会議システム・ICT活用による原籍校とのつなぎ支援の充実を図る。
 - ・肢体不自由部門でのスパイダー活用やICT活用で自立活動の指導の幅を広げる。

(3)【組織】組織力の向上

①教職員の専門性向上

- ・校内研修について、外部講師(島根大学 樋口教授・関西国際大学 花熊教授)を招聘し、専門性の向上を図る。
- ・学部研修を毎月実施(児童生徒の実態把握、教材教具の整理等)。

②引継システムの推進

- ・定期的な「断捨離」を行い、「校務のスリム化」と「アーカイブ化」を推進する。

③教職員働き方改革の推進

- ・教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために①「仕事の時間を区切る」②「仕事のスリム化を行う」③「仕事の仕方を変える」の3点で整理をしながら、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進する。

※組織力の向上として、各学部主事より「学部運営において大切にしていること」について具体的に補足説明。

(4)【発信】発信力の向上

①交流および共同学習の充実

- ・「学校間交流」「居住地校交流」について、実践を充実。事前学習としての「出前授業」や交流後の「相互の学びや気づき」を大切に積み重ねる。

②地域に開かれた学校作り

- ・「なんでも相談会」「こうやん座談会」の開催。
- ・「ポッチャ推進委員会」を中心にポッチャの取組を地域の学校や地域の方々へ普及する。
- ・「ゆめ水族園」の開催で地域の学校園へ案内を出し、たくさんの方々とは体験を共有する。

③実践の積極的発信

- ・教職員が自分たちの実践をまとめ、「わかりやすく伝える力」を強化し、校外で発表の機会を作り、発信する。

協議内容・承認事項等(委員からの意見の概要)

《委員より》

- ・「交流および共同学習」や「センター的機能」として、地域の小中学校が支援学校に何を期待しているのかを考えて、より充実した「学び合い」に期待している。
- ・地域の小学校で入院することになった児童が、光陽支援学校の分教室(総合医療センター)で学ぶことができ、保護者も安心していた。また、今年度は「学校間交流」もあり、しっかりと「連携・協働」をして、共に学び合いたい。
- ・安全安心な校内体制構築について、学校とデイサービスの連携も共に考えていきたい。また、光陽支援学校の卒業生もたくさんいるので、ポッチャで交流や試合等ができればありがたい。
- ・病院で入院している生徒が、原籍校の行事にも参加できて、入院中の学習もできるように「二重学籍」が実現すればよいと思う。
- ・光陽支援学校は、二つの部門(肢体不自由部門と病弱部門)があることをもっとメリットとしてアピールしたらよいと思う。二部門があることは「メリット」で、学校全体を高め合える。
- ・二重学籍については、すぐに制度を変えることは難しいので、その中でできることを考えてもらいたい。病弱部門では、VRの取組実践が充実しており、原籍校の体育祭をVR活用で実体験できている。すばらしい取り組みである。
- ・ポッチャ推進の取組について、ルールの工夫等で病院内でも取組めることを期待している。
- ・めざす学校像が四つに整理されていてわかりやすい。「好循環な学校」は大切なことである。
- ・児童生徒が地域小中学校の「通常の学級」や「支援学級」「通級指導教室」・支援学校・高等学校等、多様な学びの場で学ぶ現状があり、「学びの連続性」が大切である。高等学校で「自立活動」の実践が始まっていく。また、通常の学級での「自立活動」については、研究校での取り組みが始まっている。センター的役割を担う支援学校として、ニーズに応えられるよう期待している。
- ・支援学校の教育課程の再編成では「教科指導」がポイントになっている。また、「肢体不自由教育としてのアクティブラーニング」について、研究・研修を進めていただきたい。
- ・教職員が「自己肯定感」を高めあう集団であれば子どもたちにも良い影響を与える。ぜひ、「自己肯定感」を高めあう教職員集団であってほしい。
- ・2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに向けて、障がいのある児童生徒も積極的にスポーツに取り組んでいることはとてもすばらしい。光陽支援学校も「ポッチャの取組」が益々、推進されており、子どもたちの活躍が楽しみである。今後、授業・交流・競技等、それぞれの「目標と評価の連携」も大切な観点として進めてもらいたい。
- ・今回の「大阪北部を震源地とする地震」の被害状況と対応について、保護者より「意見書」にて質問があり、学校が回答。
→地震の被害状況としては、「ガスの停止(当日に復旧したが、給食には間に合わなかった)」「校舎外回りの東壁や西壁に隙間や亀裂」「新館の玄関入り口付近の壁タイルが剥がれて落下」「新館のトイレの壁タイルに亀裂・落下」「新館のスロープ天井屋根が外れかけて業者撤去」「消火栓・給水管の水漏れ」「プールの床に穴」等を報告。既に、修理済の部分と今後、順次改修する部分等、合わせて報告を行った。また、地震直後から校長室に本部を立ち上げ、管理職・事務長・主査・首席・部主事・分掌長等と協議をしながら、対応の判断、指示を行い、全教職員で児童生徒への対応、保護者連絡、通学バス連絡等を行ったことも報告した。
- ・今回の地震で気が付いたことを今後活かして対応をお願いしたい。保護者への連絡方法等システム作りが必要。
→学校としてメール配信システムの加入率を上げる等、できることから課題解決に取り組んでいきたい。

次回の会議日程

日時	平成30年12月17日(月) 10:00 ~ 12:00
会場	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室